

## 司禄星中殺

司禄星には「財力(蓄積財)」「温厚」「庶民的」「愛情」そして「家庭」などという意味合いがありました。それらは、全ての行動における蓄積をなす世界であり、長い時間と努力を必要とする世界でもあるのです。  
この司禄星世界のエネルギーが不自然融合のエネルギーに変化する状態が

司禄星中殺の現象ですから、中殺現象が表面化することにおいても長い時間を必要とし、表面だけを観察していたのでは、どこに天中殺現象が現われているのかは判別出来にくい世界を形成しているのです。

([このような状態が十大主星の天中殺中、一番判別しにくい中殺世界なのです](#))

司禄星は、思考法であれ、日常の生活であれ毎日毎日を少しづつ積み重ね、その瞬間において最大の努力を発揮するエネルギー世界であるわけです。

その星世界が不自然融合(天中殺)のエネルギーを形成するのでありますから、自分自身が意図しないものを積み重ねているにも関わらず、その瞬間において不満足を感じるものはごく少数の司禄星中殺者のみであって、その多くはそれが自分自身の意図しない結果になろうとも不満すら感じないのである。

中殺現象は、積み重ねの間には必ず出て来るのですが、人によってはとんでもないときにして出て来る可能性があるわけです。

本来自分のペースを乱す事がない司禄星ですが、中殺されますと、とかく速度の早さを求め一種の焦りに似た人生行程をつくり出すのです。そのために性格の中に気ぜわしさや、荒々しさが加わり、時として粗野な人間性を形ち作る結果となってしまうのです。

司禄星本来は財力の星であり、その蓄財才能はどの星よりも堅実で確実なのでありますが、中殺されますと財産においても、自分の財力でありながら自分の自由にならないものとなります。

それは、毎日の積み重ねの結果として財力の権限が自分以外の者の手に移動すると云う状態が生れて来るからなのです。

司禄星中殺をもった人は自分のため、子供のため又配偶者のためと思いこみ、それを信じて日々の蓄積に励むのですが、家庭全体の力関係がいつの間にか配偶者が握ったり、親の方が握ったりする状態が生じてくるのです。

ここに司禄星は家庭を意味する世界でありながらそれが自分自身との間に不自然融合をつくり出している所以があるのであります。

換言すれば、自分自身が意図するものと家族全体との間に異質の思考や行動をつくりだすのであります。  
それが極度に表面化するときは、家庭放棄や蒸発するという形で現われたりもするのです。

本来司禄星中殺は、一度の結婚でおさまりにくく、家庭をもっても家族関係がまとまりにくい星世界であると云われています。[\(平和の中の孤立を構成するエネルギー世界なのです。\)](#)

しかし、本来から玉堂星世界のエネルギーは、闘争・争いの世界ではないわけですから、玉堂星が中殺されますと、「おだやかな中に意志の通じ合いが無い」だけのことであり、多くは相手に「理由なくして、去られる」という状態をつくり出しているのです。

このような状態を、側面・あるいは裏側から、観察しますと、大家族になればなるほど、その効力が大きいわけであり、小家族であれば効力は減少していると云う事です。

そのような理由から結婚しても子供がいない夫婦・正式の婚姻関係を持たない夫婦・国際結婚、等のように誰から見ても異質[\(社会通念からみたところの異質・異常結婚と思って下さい\)](#)な家庭生活を形成する場合は、司禄星中殺の効力はほとんどといって良い程みることはないのです。

それはまた、経済力の面においても言える事であって、正式の財力と表現出来るものには恵まれにくく、不動産のように財力が法のもとに明らかになっているものは、とかく他人の手に移りやすいのであります。